

音楽の世界で今何が起きている??

阿部 竜之介 『Pepeの視点』

June / 10 / 2022 # 111

Trombone & Euphonium奏者の阿部竜之介(Pepe)です。

このメールマガジンでは、僕から見た今の音楽の世界で起きていること、また演奏に関するヒントなどをお届けしていきます。

またメルマガ内でもいろいろな質問に答えていこうと思っていますので、どんどん質問してきてくださいね！

INDEX

[1] 旬な話題、気になる話題

『刺激的な日々を送っています』

[2] Pepeのひとりごと

『with elegance』

[3] おすすめ動画

『Warm-up for trombone #1 - Fabrice Millischer』

『ユーフォチューバー 三浦徹のお話【私の学生時代 前編♪】 [020]』

[4] 演奏のヒント！

『これも上達の一種？』

[5] 編集後記

[1] 旬な話題、気になる話題

『刺激的な日々を送っています』

5月、6月とオーケストラの活動の関係で遠くへ足を伸ばすことが
ちよくちよくありました。

そのときに、うまく時間を使って普段一緒に吹くことのない人たちと
一緒に音を出す機会を持ってました。:)

こういう機会って、本当に大切だと思います。

特に、僕くらいの年齢になってくると、同じ環境にばかり身を置いていたり、新鮮な機会があったとしても、自分の感覚をいつも以上に鋭くしておかないと、感じられるものも感じられなくなってくると思っています。

先月、今月は、そういう意味でもいろいろな人からいろいろな種類の刺激を受けて、いい影響を受けることができました！ :D

常に「もっとうまくなりたい（いろいろなものをいろいろな表情で演奏できるようにになりたい）！」と思って過ごしていますが、そのためのヒントをいろいろな人（レッスンの生徒さん含む）の音を聴き、演奏を聴くことによって手に入れられています。 :)

今の環境に感謝ですね。

あとは、調子に乗ってがんばりすぎないように（笑）、休養を上手に入れながら過ごしていくこと、ですね。

まだ今月、来月もいろいろと刺激を受ける機会があるので、このまま刺激を受けながら成長していきたいと思っています！

[2] Pepeのひとりごと

『with elegance』

少し前から、演奏のとき（音を出すとき）に「with elegance」ということを意識して過ごしています。

簡単に言うと、

大きな音＝乱暴な音

とすぐにならないように気をつける、という感じですかねえ？

どんなものを吹いているときにも、品の良さというか、elegantな感じのある演奏をしていこうかと考えています。

僕の中での「with elegance」な具体的なイメージは、パリ管弦楽団のTuba奏者、Stephane Labeyrie氏の演奏の感じですよ（彼は同じ門下なんですよ）。

Stephaneの演奏はいつもどこかに品があって、曲の演奏だけでなく、音階練習のときでも音楽を感じることができます。イメージとしては一番近いと思います。 :)

言葉にすると、

「活きた音ですべてのフレーズを演奏する」

という感じかなあ。

それを、これまでよりさらに意識して活動することによって、より音楽（演奏）活動を楽しめているように感じています。 ;)

[3] おすすめ動画

『Warm-up for trombone #1 - Fabrice Millischer.』

<https://www.youtube.com/watch?v=5QXEewH1lcl&list=FLMnqqdLPBhh36yGuKu08PSg&index=3>

今月の1つ目の動画は、Trombone奏者のFabrice Millischer氏のウォームアップの動画です。

フランス人らしく、アメリカ人や日本人のそれとは違って少しテクニカルな感じのウォームアップですね。

この動画はシリーズになっているので、その#1からどんどんと先に進んでいってみたいですね！ ;)

『ユーフォチューバー 三浦徹のお話【私の学生時代 前編】 [020]』

<https://www.youtube.com/watch?v=g4JnlcCUo7Y&list=FLMnqqdLPBhh36yGuKu08PSg&index=3>

2つ目の動画は、Euphoniumの三浦徹氏の動画です。

毎回とても興味深い話をされていますが、今回のものは、彼自身の学生時代の話をされています。

当時の日本のEuphonium界の様子が、本人たちの言葉で話されている、とても今日なものになる動画だと思っています。

前編と後編に分かれているのですが、もう後編も出ていますので、続けて観れますよ。

これからも、どんどんとEuphoniumの世界を広げて、盛り上げていきましょう～！！ :D

[4] 演奏のヒント！

『これも上達的一种？』

みなさん、楽器に使っているオイルやグリスは、どのような基準で決めていますか？

- ・楽器を買ったときにケースに入っていたもの？
- ・昔、学校で楽器を吹き始めたときに先輩に教えてもらった、もしくは先輩が使っていたものと同じもの？
- ・新製品が出たときや、巷で話題になっているものがあれば、とりあえずチャレンジ！？

決め方はいろいろとあると思います。

「これでないとダメ！」だとか「これがいいですよ、オススメ！」というつもりはありません。

すべての楽器、奏者にとって最高のものってあると思いますので。 :)

ここで伝えたいことは、オイルやグリスを変えることによって、何がどのように変わってくるのか、ということは知っていて損はないですよ、ということです。 :)

個体差（オイルやグリスはもちろん、楽器も）はもちろんありますが、オイルやグリスを変えることによって、楽器の響き方が変わってきます。響きの伝わり方、という感覚ですかねえ？

個人的に僕は、グリスを変えるときの方が音への影響を大きく感じます。楽器の反応が変わってくる感じかなあ。

たとえば、硬いグリスを使うと、抵抗が強くなって音がしっかり（かっちり）してくるように僕は感じています。

チューニング管ではなく、トロンボーンのハンドスライドに関しては、同じクリーム（オイル）だとしても、新しく塗り替えたあとのほうが確実に音が整う感覚はありますね（でも、僕は普段、あまり頻繁に塗り替えません……。いや、塗り替えたほうが気分はいいんですよ。ただ、面倒なだけです……。笑）。

僕は、オイルもグリスも気に入ったもの（つけたあとの感覚と、つけやすさが僕にとっては大きなポイント！）を見つけると、他のものはあまり試すことなく、ずっと同じものを使っています。

個人的には、細かいことにはあまりこだわりません（笑）。

ま、これには理由もあるのですが……。

長くなっちゃうかもしれないけど、書いておきましょうか。 :)

ヨーロッパで数年暮らしていた経験からきているのですが、日本のようにたくさんの種類のオイルやグリスが手に入る環境にずっといるのならこだわってもいいかもしれませんが、ヨーロッパのようにオイルやグリスが1、2種類しか売っていない（手に入らない）環境にいざ身を置くことに

なった場合、こだわった道具が手に入らない環境がすごくストレスになると思うのです。なので、僕はそれほどこだわらないようにしています。;) シンプルな理由でしょ？ (笑)

最後に1つ、少し限定的なことを。

僕の使っているTrombone、YAMAHAのXenoシリーズは、1ポジションで取れるDの音を吹くとき、ベルのあたりが共振することがあります

(ほとんどの場合)。

これは、あのYAMAHAさんでももう何年も原因がわかっていないものですが(管楽器は、周波数の関係でそういう共振がどうしても起こってしまうところがあるそうです)、この影響を小さくするために、僕はチューニング管のグリスを、YAMAHAの「ウルトラハード」というものにしていきます(現在はF管のみ)。

すごく硬いグリスを使うことによって、この共振の影響をできるだけ小さくしています。

この問題が気になっている人は、参考の1つにしてみてくださいね。:)

編集後記

この春から、いろいろな方面で感染予防対策をした上での活動が再開したように感じています。

オーケストラの活動の1つである文化庁の学校公演も、今年度は(数は少なくなっていますが)過去2年に比べると以前に近い形で開催されるようになってきました。

感染予防に関しては、さすがに2年以上もやってきていると、ちゃんとしている人はずっとちゃんとやっていると思いますし(きちんとやっても感染してしまう、という状況は残念ながら変わりありませんが・・・)、それをきちんとやりながらそれぞれの分野の活動を活発にしていく、という状態になってきていると思います。社会人バンドの活動も、各地で再開の様子をSNSなどで見聞きし、嬉しく思っています。:D

来月、7月6日から10日にスペインのマラガで開催されるスペインのEuphonium、Tuba協会主催のフェスティバルにアーティストとして参加することになりました。

2014年にバルセロナで開催されたフェスティバル以来の参加で、今から

とてもワクワクしています！

次号のこのメールマガジンの発行は、その大会の期間中・・・。
それまでに書いて発行の準備ができていればいいのですが、果たして
ちゃんと（日本時間の）金曜日に発行ができるのでしょうか。
元気に現地から発行できますように！

その大会では、コンクールの審査員、30分程度のミニ・リサイタル、
そしてマスタークラスをやらせてもらいます。

久しぶりのヨーロッパ、しっかり楽しめます！

阿部 竜之介(Pepe) オフィシャルウェブサイト
<http://www.pepeabe.com>
ご意見、感想、質問などはメールでどうぞ！
info@pepeabe.com

©阿部竜之介 『Pepeの視点』
のバックナンバー、配信停止はこちら
<http://www.mag2.com/m/0001601194.html>